

経済学委員会数量的経済・政策分析分科会（第26期・第5回）

議事要旨

1. 会議名 経済学委員会数量的経済・政策分析分科会（第26期・第5回）
2. 日時 令和7年9月13日（土）12時00分～13時00分
3. 会場 弘前大学総合教育棟3階305講義室及びオンライン会議システム併用のハイブリッド開催
4. 出席者 西山 慶彦、石井 利江子、岩城 秀樹、宇南山 卓、大森 裕浩、川崎 能典、北尾 早霧、小原 美紀、西郷 浩、高槻 泰郎、中村 さやか、福重 元嗣、宮川 努（13名）
5. 議題：
 - （1）今後のチュートリアルセッションの開催について
 - （2）政策ニーズのヒアリングについて
 - （3）その他

議事録

（1）チュートリアルセッションの開催について

日本経済学会2026年春季大会におけるチュートリアルセッションについては、早稲田大学の浅古泰史先生に依頼すること、宇南山委員長が事務的な手続きを進めることが再確認された。

2027年度のチュートリアルセッションについて、意見出しが行われ、「計量経済学の理論と応用の接点」、「経済学研究におけるAIの活用」、「数量的データを用いた歴史研究」といったテーマで開催する案が出された。

また、議題（2）とも関連して、政策と研究の架橋を実践してきた方にチュートリアルセッションを依頼するという案も出された。

（2）政策ニーズのヒアリングについて

宇南山委員長より、政策決定者は、どういった経済学者が、どのような研究をしているのか、という点について十分な情報を持っていない現状があるとの指摘がなされ、政策当局と経済学者を繋ぐような組織あるいはウェブサイトを

立ち上げてはどうか、という提案がなされた。

これに対して、研究の内容まで、紹介する側が判断するのは難しいのではないか、との意見も出た。また、官僚経験者で、現在研究者として活動している方を分科会に招いてお招きして、この問題についてヒアリングしてみてもよいのではないか、という意見も出された。

この他、政治家も同様のニーズを持っていると思われるため、経済学者のリストを作っておくことは重要ではないか、あるいは研究者の探し方（論文の本数、掲載誌のランク、引用件数など）をアナウンスしていくことも重要ではないかといった意見も出された。

以上の意見を踏まえて、政策決定者と研究者の間の情報共有を行う仕組みについて、宇南山委員長が次回分科会において原案を提示することが確認された。

（3）その他
特になし